

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171700186		
法人名	医療法人 加藤クリニック		
事業所名	グループホーム 中山道		
所在地	岐阜県恵那市大井町2372番地6 (電話) 0573-20-3285		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月20日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な民家が点在し、木々に囲まれたホームである。南東には、馴染みの風景である恵那山が間近に見えている。利用者は、恵まれた自然環境の中で、自分のリズムを保ち、職員・同居者と互いに思いやり、感謝の言葉を交わし合い、役割りを担いながら暮らしている。職員は、高齢者に対する深い思いやりと、心と心で向き合うことで、認知症ケアのやりがい、職業としての喜びを体得している。また、管理者の運営方針は、利用者の人権を尊重し、豊かな介護環境を提供することであり、それに取り組むひたむきな姿勢が、職員の共感と励みになって、定着率の高さに結びついている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の改善課題であった、運営理念では、地域で暮らすための基本理念が明確に含まれている。地域との交流では、地域の一員として迎えられている。終末期ケアの方針は、書式化して家族に説明している。防災では、自主訓練を年4回行い、訓練内容を充実させた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者の認知症高齢者に対する深い思いを、全職員が共有し、質の高いケアが提供されている。さらに、恒常的にサービスの向上を目指し、自己評価をベースとして、利用者の人権を尊重し、自分らしい暮らしができるように、全職員が熱意を持って取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議で取り上げ、消防署に要望していた、地域に消火栓を設置することが具体化することになった。また、会議で提起された、徘徊通報カードに、連絡先電話番号、ホーム名を書いたものを地域に配布している。運営推進会議の機能が活かされ、具体的な成果に繋げている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 意見・苦情箱は活用されていないが、家族会や家族の訪問時に話し合いの場を設けている。「職員の名前が分りにくい」「看取りの不安」などの意見があり、十分に話し合い、相互理解ができています。家族へは、ホームの実状や暮らし振りの様子を伝える「中山道だより」、また、個別の「近頃の様子」を毎月送付している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会に加入し、地域ふれあいサロンでの奉仕活動、周辺のごみ・空き缶拾いに参加し、地域と協働している。地域の祭りや行事に参加したり、ホームの五平餅会に近隣の人を招待し、交流している。職員の3名は自治会員であり、近隣住民とは災害時に協力しあうことで連携している。

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 30 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	9.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	21,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 30 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2			4 名
要介護3	1 名	要介護4			1 名
要介護5	1 名	要支援2			0 名
年齢	平均 88.2 歳	最低 81 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤クリニック
---------	---------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、一人ひとりの個性を尊重し、明るく楽しい、家庭的な暮らしを支えるために、利用者本位の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関・スタッフルームに掲示し、すべての職員が言うことができる。利用者の心に向き合い、優しく寄り添いながら日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は、地域生きいきサロン運営者の一員としても活動している。3名の職員は、自治会員であり、ホームの役割りの理解が地域に広まっている。また、地域の祭りに出かけたり、近隣の人々を五平餅会などに招待し、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価における改善課題は、全職員で意見を交わしながら、改善に取り組んでいる。恒常的にサービスの向上を目指し、自己評価をベースとして、利用者の人権を尊重し、自分らしい暮らしができるように、全職員が熱意を持って取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに行われ、取り組みの成果が見られる。消防署に提出した消火栓設置の要請は実施されることになった。また、会議で提案された、徘徊通報カードは、各家庭に配布されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が推進する「まちづくり市民協会」「ボランティアネットワークの立ち上げ」に協力している。市に要望していた、介護相談員派遣が来年から実施されることになった。介護保険法改正の説明会等にも出席している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「中山道だより」を発行し、ホームの様子を伝えている。さらに、毎月の請求書に添えて、個別の暮らし振りを書いた手紙「近頃の様子」を送り、家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱の活用は見られないが、家族会や訪問時に話し合いの機会を設けている。「職員の名前が分らない」「最期まで見てもらえるのか」等の意見に対して、丁寧に説明し、理解を得ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は、最小限に抑えられている。離職や産休などで代わる場合は、1ヶ月以上の引継ぎ期間を取り、後任者を指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修に、毎回1名が受講している。その他、地域主催のリハビリ講座、口腔ケア、救急救命、虐待防止、食事作りなどの学習会があり、積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	設立より続いていた同業者との交流は、処遇問題等、予想外の方向に進展したため、現在は中断している。	○	目的意識の同じ同業者と、一定のルールを定めながら交流できるように、相手方の選定を含め、検討している段階であり、再開が期待される。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を10日間できる体制を取っている。一緒に食事をして、職員も、本人の気持ちが楽になるように、気配りをしながら馴染んでもらった事例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴から、得意なことや好みを良く把握して、一緒に過ごす時間を大切にしている。家事手伝い、畑の野菜作り、鉢植えの水管理、廃品を利用した椅子や肩たたきの工作など、一緒に支え合い、利用者の経験を学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生まれ育った京都に行きたい人の思いを適えるために、管理者が同行し実現した。また、夫の法事、忌明け法要に帰宅したい人などには、本人・家族と相談し、実現に努めるなど、希望に添えるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員のケア会議で検討し、本人・家族の意見を取り入れながら、関係者の意見も反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的見直しと、状態に変化があれば随時見直している。全職員で利用者の心身状況を検討し、本人・家族・医師と十分に話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院には、職員が無償で一緒に付き添っている。外泊支援や日帰り温泉、ぶどう狩りなど、利用者や家族の希望による特別な外出を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医及び市民病院に3名、精神科に1名の受診を支援している。毎週、協力医の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの指針を作り、家族へ説明し、了承が得られている。職員の心構えについては、混乱が生じないように、対処方針を共有している。過去に看取りの事例がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る場合は、本人の許可を得、言葉を掛ける時は、常にプライバシーやプライドに配慮するように徹底している。個人情報、所定の場所で安全に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間は、本人のペースに合わせている。家事手伝い、畑の野菜作り、工作、計算ドリル、漢字の読み書き、大正琴の演奏、昼寝など本人が自由に選んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備では、包丁を用いて野菜の皮を剥く等、利用者も調理に参加している。職員も一緒に食事を摂り、にぎやかな会話で、楽しい雰囲気作りに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望により、入浴の順番や時間、湯温を調整している。入浴を渋っている人には、仲の良い同居者から、声をかけてもらい浴室に誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の野菜作りでは、経験者から肥料のやり方、消毒の仕方を教わっている。家事や掃除、プリンターの水やりなどで、それぞれ役割りを担っている。五平餅会やホームの行事、回転寿司・うなぎ屋での外食が、利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム周辺を散歩し、リフレッシュの機会にしている。買い物、外食、喫茶、理美容院、花見、ぶどう狩り、紅葉狩りなどへ出かける機会も提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・居室には、鍵をかけていない。出かけた人を玄関のチャイムで感知し、職員は外で偶然出合ったように話しかけ、対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導により、防災・避難訓練を実施している。また、年4回、自主訓練を実施し、避難経路、避難場所への誘導を訓練している。自治会を通じて近隣の協力が得られことになっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量・水分摂取量は記録・管理されている。一人ひとりの状態に応じた調理法や栄養バランスは、定期的に、ボランティアの栄養士に指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の高い天井窓から光が入り、明るく快適な共用空間がある。季節感のある花や絵画が飾られ、畳コーナー、床暖房があり、ベランダ越しに見える恵那山の景観も爽快である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族や伴侶の写真、人形、時計、着物の美人画、テレビ、花小鉢、小物家具類などが持ち込まれ、居心地よく配置されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。